

平成27年度第4回さぬき市総合教育会議議事録

1 開催日時	平成28年1月25日(月) 開会 午前9時00分 閉会 午前9時41分			
2 場所	さぬき市役所本庁303会議室			
3 出席者		市長	大山 茂樹	
		教育委員会	細川 哲士 徳田 二三男 日向 和加子 得丸 慶子 岡 裕子 安藤 正倫	
		欠席者	なし	
	事務局		総務部長	穴吹 靖昭
			教育部長	和田 浩二
			教育総務課長	間島 憲仁
			教育総務課副主幹	富田 和希
	その他説明等のため出席した者	なし		
4 会議に付した協議・調整事項	(1) 教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱について			
5 特記事項	傍聴人3名			
6 会議内容	<p>開会</p> <p>教育部長 定刻となりましたので、平成27年度第4回さぬき市総合教育会議を開会したいと思います。 開会に当たり、市長、教育委員会委員長から御挨拶をお願いします。</p> <p>市長挨拶</p> <p>市長 (挨拶)</p> <p>教育委員会委員長挨拶</p> <p>委員長 (挨拶)</p> <p>協議・調整事項</p> <p>教育部長 協議・調整事項について、ここからの議事進行は、市長をお願いします。</p> <p>市長 では、定めに従い、次第に沿い、進めていきます。 今日の主な議題としては、さぬき市の教育大綱案について、前回の議論を踏まえて、更に深めていき、可能であれば、今回で一つの区切りをつけることができると思っています。前回の様々な議論、また、今回で4回目の会議ということで、これまでの会議全体を踏まえて修正をしたので、まずは事務局から修正箇所等の説明をさせ、その後に質疑応答又は討論をしたいと思います。</p>			

	資料「さぬき市教育大綱（案）」について、事務局は説明してください。
事務局	（資料 さぬき市教育大綱（案）について説明した。）
市長	<p>前回の議論を踏まえた修正点についての説明は、以上です。</p> <p>別紙として「さぬき市教育大綱の概要等」を配布していますが、これまでの経緯や理念、基本的な考え、さらには政策の基本方針について、大綱をコンパクトにまとめたものです。大綱案と併せて確認していただき、御意見を伺いたいと思います。</p> <p>どなたからでも発言をお願いします。</p>
教育委員	<p>大きな部分での意見というものは、ありません。細かな点では、「基本的な考え」の箇所の中の下の文章の冒頭で、「さぬき市の教育大綱の～」とあるのは「さぬき市教育大綱の～」とした方が良いのではないかと思います。</p>
教育委員	<p>前回の会議で細かな点について意見しましたが、その意見が無くても、行間に意図する内容を感じることができたのですが、今回の修正において文言が追加され、より分かりやすくなり、良いと思います。全体を通して、市民にとって分かりやすい文章表現になっており、良い大綱に仕上がったのではないかと思います。</p>
教育委員	<p>誰が読んでも理解できる内容の文章になっているかという視点で読みました。一つ一つの要素の文章が長いのではないかと思います。やはり全て必要な言葉でもあるので、これで良いと思います。ただ、別紙の「概要等」については、「理念」の説明部分の文章が少し長いのではないかと思います。もう少し簡潔な文章でも良いのではないかと思います。</p>
市長	<p>この部分は、全体で一つの文章になっています。箇条書きという方法もあったところですが、思いを全て入れるとすれば、おのずとこのようになった次第です。特に冒頭の「市政は市民のためにある」というのは、基本的な私自身の原点であり、このようなことを含め、結果として長々とした文章になったことは申し訳ないですが、様々なものを網羅している点で御理解ください。</p>
教育委員	<p>「基本的な考え」の三つの視点については、表現が統一され、良くなったと思います。自分が市民だったら、こういう人を育て、最終的にはその人がまちを作るということがよく分かって良いと思います。</p> <p>また、「基本となる方針」の方針中のそれぞれの要素の文章について、一つ目の方針では四つの要素とも3行で収めている一方、二つ目の方針では全てが4行となっており、少し量を減らしてはどうかと思うところ、例えば、二つ目の方針の要素の一つ目のいじめに関する部分について、かなり具体的な記述なので、単に「…いじめについて組織的な取組を図るとともに～」としてもよいのではないかと思います。市民にとっては、いじめがどういうものなのか具体的には分からないこともあると思うので、このように具体的に記述しておけば分かりやすくて良いと思います。ただ、その要素に「保護者・教員・地域～」とありますが、「教員」は、事務職員や管理員を含まない言葉であり、最近では事務職員も学校経営に積極的に参画されているので、「教職員」という文言がより適切だと思います。</p>

	<p>さらに、五つ目の方針の要素の三つ目に「…健康に人生を生き抜く～」とあることについて、健康で一生を終えることは大事だとは思いますが、健康だけが人生かと言えばそうでもないということもあり、この部分に「人生」と使うのには少し違和感があります。単に「健康に生き抜く」でも良いのではないかと思います。</p>
教育委員	<p>おおむね他の委員と同じ意見です。あえて加えるなら、図を効果的に使っているので、ぱっと見たときに目に入りやすく、内容がすっと入りやすいものになっている点がとても良いと思います。また、「基本的な考え方」の箇所では三つの円で表現し、なおかつ色分けしたのは、印象にも残り、この先読み進めていく上で、分かりやすい手助けになっていると思います。</p> <p>また、別紙の「概要等」については、「政策の基本方針」の箇所で、要素の例として具体的なワードを並べているのは、大綱を理解する上で、「具体的にどういうことをしていくのだろうか」ということへの手助けになっていて、とても良いと思います。</p>
教育長	<p>これまでの教育界と市長部局には、かい離があり、市長は市長の考えで政治をし、教育委員会は教育委員会の立場で物事を進めるという場面が多くありましたが、いじめの問題以降、徐々に両者をつなぐ、いわゆる両輪のごとく一緒に施策展開することが特に重要視されています。この大綱では、市民一人一人を大切にしたいことや、個々の多様性を認め、個人個人を尊重するといった市長の政治姿勢が、教育にも生かされると言えると思います。このことから、市の行政として市長と教育委員会は一体であるということが、この大綱の中から読み取れるのではないかと思います。教育というのは単に教育界だけというものではなく、市長部局とも密接に関わり、市長の考えも教育行政に反映されているということが、様々な部分の文章から読み取れるので、この大綱は、機能するのではないかと期待しています。</p>
市長	<p>皆さんに発言していただきましたが、他にもまだまだ発言したい意見はあると思います。</p> <p>三つの円については、分かりやすいとの評価を頂きましたが、円の文中では、「生きる力」「ひと」「ふるさと」を是非これからも大切にしていきたいとの意味でかぎ括弧を付けました。</p> <p>特にいじめについては委員の発言にもありましたが、何回目かの会議の中でも言ったように、やはり私自身の思いとしては、「いじめ」とか「不登校」といったものは、本当にあってはなりません。もちろん学力も大事ですが、その学力を付ける前提として、人間として尊重されるということが大事であり、人間の存在そのものに関わるものであるという意識をさぬき市全体として持ち、その上で、そのような社会を前提としたその社会に求められる人材を育成したいと思っています。このことから、政策の基本となる方針に「これからの社会に求められる力を培う」とあるのは、「社会」というものがまず在って、今の社会に合う人を教育するというものではなく、一人一人が尊重される、みんなが目指すような「社会」を作るために求められる人を育てるという意味であり、そのためにこれを方針の中でも一番初めに書いてあります。</p>

	<p>昨日、「女性が輝く地域づくり講演会」があり、パネリストの一人として登壇しました。国の内閣府の方には、「国をどうするか」があって、「そのためには女性は何をしなければならないか」という意識が強いと感じました。私は地方の人間なので、女性の問題に対しても、「「社会」が、労働力が無いので女性が必要だ。」というのではなく、女性の存在そのものが必要であり、その必要な女性が輝ける社会を作るという考え方です。同じことを言っているようですが、国は、「国があって、そのために必要な女性が活躍してください。」ということであり、私は、「女性にはもともと国とは離れて価値が有るもので、その女性が輝けるような社会を作りましょう。」ということで、私としてはベクトルの方向を少し違えて話したつもりでしたが、内閣府の方は、どうやら余り理解されずに帰ったように思います。いつも国の方から地方を見ているとそうになってしまうものです。我々も気を付けなければなりません。サービスを供給する側からばかり見ていると、そのようなことに陥ってしまいます。一所懸命にすればするほど陥りやすい行政の欠点ではないかと思えます。</p> <p>やはり一人一人を大事にして、その人たちがもっと輝ける、もっと生きがいや充実感を持つことができるような社会を作り、そのような社会が求めている人間をつくるといった、原点を確認し、「社会」を考え、その社会が必要な人間を育てるとするべきであり、初めから「社会」が在って、今の社会を前提に、そのために有用な人間を育てるとするのは、少し意識が浅いのではないかと思います。この大綱の中では、原点に帰るという意味を込めて、このような順番にしているところです。</p> <p>また、委員から意見のあった「さぬき市の教育大綱～」の件については、「の」を削ることとします。また、「教員」の件についても、「教職員」に修正することとします。ただ、「人生を」という文言の件については、それに続く言葉として「生き抜く」とあるので、少し大げさに見えるかもしれませんが、文脈の流れの中で「人生を」という文言を使うことに御理解いただきたいと思えます。</p>
<p>教育長</p>	<p>この「人生」というものを考えたところ、いわゆる20歳までの教育機関で教育を受ける時代、また、社会に出て活躍する時代、それを終え、第2の人生を歩む時代といった様々な段階があり、その段階をずっと通してという場合には、「人生を」とある方がよく分かるのではないかと思います。</p>
<p>市長</p>	<p>これまでの議論を通して、一つのイメージとしては、皆さんの了解を得たのではないかと理解しています。</p> <p>冒頭でも申し上げたように、教育大綱は、作ることも大事ですが、これをいかに見守りながら、チェックしながら、活用していくことが本当に大事なことだと思います。今後は、この大綱を共通認識とし、時代を見て、何より子どもたちを見ながら、必要な箇所については、変えるべき所は変え、守るべき所は守っていきたいと思います。さぬき市の総合計画の中でも「守る・つなぐ・進化する」をテーマに掲げており、良いものは時代が変わっても守っていき、今の時代に生きる人の責任として良いものをつないでいき、単に右から左につなぐのではなく、進化をさせるという中で、子どもたちが自分の人生を祝福で</p>

	<p>き、生まれてきて良かったと思い、さぬき市で暮らして良かったと思いながら、人生を送ることができるような大綱にするために、私自身もこれまで以上の努力をするし、教育委員会をはじめ教育に携わる皆さんの努力も併せてお願い申し上げて、この教育大綱については、先ほどの修正を加えた上で、「さぬき市教育大綱」とするということで最終確認をしたいと思いますが、これに御異議ありませんか。</p>
教育委員	(異議なしの声)
市長	<p>さぬき市教育大綱は、決定しました。なお、報道機関に対しては、別紙の「概要等」によりお知らせすることとします。</p> <p>その他について、何かありますか。</p>
教育長	<p>別に配布しているパンフレットは、この教育大綱の策定に合わせて、保護者に対し、大きな問題となっている家庭教育についての指針を示すため、教育委員会が作成したものです。これは、中学校に入学する生徒の保護者全員に、入学説明会の際に、教育委員会事務局職員が出向き、配布し、説明することとしています。主には、思春期の子どもの心の特徴やそれへの向き合い方や、全国学力・学習状況調査から見てきた家庭生活の在り方について考えてもらう一つの手掛かりを示したものです。また、いわゆるスマホの利用について、県教委の取組を受けて、「さぬきっ子の約束」を示し、注意を促しています。</p> <p>この度の教育大綱の下に、子どもの教育を共に進めていこうということを各家庭に訴えるために作成したものです。</p>
市長	<p>中学生の保護者向けとのことですが、その成果を見極めながら、小学校に入学する子の保護者や幼稚園に入園する子の保護者にも広げていってほしいと思います。</p> <p>家庭教育はとても大事だと思います。その人の人生にとって家庭での過ごし方が幸せにつながる場面が多いと思います。「教育」と関係がなくても市民には、家庭での生活が子どもだけでなく自分自身も含めて大事であると知ってほしいです。大人にも家庭生活があり、家庭生活が不規則で不十分な大人は、大人として段々劣化していくような気がします。子どもにだけ「〇〇しなさい」と言い、自分はしないという大人がいると聞きますが、家庭教育というのは、子どもに対するとともに、実は自分に対しても大事であるという意識が広がっていけば、市長の立場としての市民の様々な向上という意味でも、家庭での過ごし方は大事だと思うので、是非この取組を進め、これに対する反応を教えて欲しいと思います。一般市民向けの家庭生活の大事さを伝える取組の参考にしたいと思います。</p> <p>それでは、この大綱のこれからの成長を皆さんも是非とも見守っていただくことをお願い申し上げ、本日の総合教育会議を閉じたいと思います。</p>
閉 会	
教育部長	以上で、平成27年度第4回さぬき市総合教育会議を閉会します。